

ピンチをチャンスに変える
老舗探訪
東海企業ウォッチング

121

太田商事の始まりは江
戸時代中期、徳川幕府4
代将軍の家柄に遡る。
一和楽園ののれんを掲



刈谷藩の御用運商のころから保全している庭園

刈谷藩御用達から画期的な会社組織へ

「酒造業としてスタート的な組織で、当時トタ。その後、刈藩」として画期的な「た」(太田田舎)の御用達となり御用屋。 泉合資会社の「御達」を襲った。 明治維新を経て、18 、「信用」で事業を展開 97年に「合資会社、 99年に「合資会社」を設立。地元「指折」のから株式会社が発展する 買戻だつた。太田家の土 地の基盤を固めた。後 代を整理、運営する近代 的の御用達の展開や本ビ

太田商事

一六五五年創業

刈谷市

ルの建設などレの仕組みが有効に機能し、現在ソルとルと全体の資産の9割を泉合資会社が保有する。 戦時中は軍需産 業業態のしを扱 いた。当時主として 高純度の石油と 油と塗料は統制を 受けた。1917年 から書き続けた 戦の40年か 7年間完全な空白 になった。これが 時を物動。 たは終戦との 情勢も一転、太田 商事は再び「商い の白田」を手に入れ、祖業から事業 を転換させた歴史 を築いていった。

「保守7割、革新3割」発展の芽は祖業に

地域のニーズに応え 変化し続けるDNA



1951年ごろの本社 (現刈谷市銀座)

「有為翁は世の謂い」え、(太田社長)が根底 として、老舗を時 あり、その姿を具現 ばれる業の多も変化 化したのが現在の同社 の歴史を築いている。太 事、祖業を扱っていた 歴史が35年以上の 金物、油、紙などが変 化し続ける「保守」 例え金物は、建築向 向、新様式に「保守」 した。 紙はシステム印刷 用紙の卸・販売事業転 換を必要とした。 紙はシステム印刷 用紙の卸・販売事業転 換を必要とした。 トペーパーや薬用印刷 用紙の卸・販売事業転 換を必要とした。 異分野に映る喫茶店 「コマ珈琲店」のFC (フランチチェーン) 事業も発端は油、太 田社長は「コマの店 の立地は、実力ソラン スランド二種と明か す。 これら積極的な事業展 開を果たしている同社が 3年間赤字を続けた 事業からは助成された (合田社長)。変化して いくのを「保守」した。 「信用」を手を引く風土は現 在も残っている。

社長 太田 啓一さん



「当の歴史は、泉合資会社 の存在抜きに語ることができ ません。泉合資会社の遺産 がない」という内容のものも あります。この家柄が現在の DNAが300年を築き、事業を 継いでこれ理由に「考えてい ます。 当社は地域密着型の企業とし て、地域に必要な高品質なサービスを手がけていま す。今も地域のニーズに 応え続け、変化し「参りたい」と 考えています。

表は当時の家柄に「5」